

ご挨拶

平成19年4月「ならやま里山林整備事業」がスタートして4年が経過いたしました。事業の対象地域の7.33haは、奈良県の「歴史的風土特別保存地区」「第一種風致地区」に指定されており、一切の開発行為が制限されてきたため、市街地に囲まれながら、いまだに里山の面影が残る貴重な場所であります。しかし、長年にわたり手入れされず放置された結果、里山は荒れ、竹林は暴走し、田畑は一面の笹に覆われる状態で、里山の自然は瀕死の状況にありました。

奈良・人と自然の会によって、本整備事業がスタートした翌年の平成20年には「三井物産環境基金」様からの3年間にわたる長期助成が決定し、これが起爆剤となって、事業は一挙に軌道に乗りました。景観が確実に甦っていくにつれて、地域の関心と呼び、活動の輪は近隣住民にも広がって行きました。初年度に延べ470人だった参加人数は、22年度には2200人を超えました。このようなマンパワーと皆様の情熱に支えられて、整備事業は当初の計画をほぼ完全達成することができました。これもひとえに、会員各位、ならびに行政当局、さらには活動の趣旨にご賛同いただいた各方面よりのご支援の賜物であり、ここにあつくお礼申しあげます。

今回お届けします「ならやまの自然誌シリーズ」CDは、里山整備の基礎資料とするために、4年にわたりこの地域の生物（植物、昆虫、野鳥）と、里山林の樹木の実態を調査したものの記録です。内容は、まだまだ不完全で、継続した調査と分析が必要と考えていますが、取り敢えず、現在までのデータを取り纏めて収録いたしました。ご一覽いただきまして、ご叱正、ご指導を賜れば幸いに存じます。

平成23年4月吉日

奈良・人と自然の会
会長 阿部 和生

ならやまの生物について

ならやまの里山は、長年にわたる放置の結果、いわば藪の状態に移行しています。この中にも、今なお辛うじて残っている里山の固有の植物や動物たちを見つけることができます。

たとえば、食物連鎖の頂点に位置するオオタカの営巣が観察されたり、里山のシンボルのササユリや、復元した田圃にはミズオオバコが出現したりします。

私達は、これらの生物について現状を注意深く調査し確認して、適切な保全の努力に結び付けていきたいと考えています。

ならやまプロジェクト 一同

平成19年～22年の間に調査したデータを「ならやま自然誌」として

以下を収録しました。

ならやまの自然誌シリーズ① 植物

ならやまの自然誌シリーズ② 昆虫

ならやまの自然誌シリーズ② 野鳥

ならやまプロジェクト 樹木調査

それぞれが独立したのファイル（PDF形式）となっています。

お手数ですが、この画面を終了して、ご覧になりたいファイルをクリックして開いてください。では、ご希望のファイルへどうぞ。